

国立民族学博物館研究報告 vol.16-1; 表紙, 目次ほか

雑誌名	国立民族学博物館研究報告
巻	16
号	1
発行年	1991-08-31
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009205

1991—16_卷1_号

国立民族学博物館 研究報告



Manus Fish Names——Tomoya Akimichi and Osamu Sakiyama

ヒマラヤ諸語の分布と分類（中）——西 義郎

ナイル川流域における土地利用と灌漑農業をめぐる社会的諸関係
——北スーダン・ナイル県の一村落の事例報告——大塚和夫



国立民族学博物館

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園 TEL. 06-876-2151

国立民族学博物館研究報告

16 卷 1 号

1991 年

目 次

Manus Fish Names	Tomoya Akimichi	1
	Osamu Sakiyama	
ヒマラヤ諸語の分布と分類 (中)	西 義郎	31
ナイル川流域における土地利用と灌漑農業をめぐる社会的諸関係 ——北スーダン・ナイル県の一村落の事例報告——	大塚和夫	159
彙 報		213
国立民族学博物館研究報告寄稿要項		220
国立民族学博物館研究報告執筆要領		221

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

Vol. 16 No. 1

1991

AKIMICHI, Tomoya SAKIYAMA, Osamu	Manus Fish Names	1
NISHI, Yoshio	The Distribution and Classification of the Himalayan Languages (Part II)	31
OHTSUKA, Kazuo	Land Use System and Social Relations in an Irrigated Agricultural Area along the Nile: A Case from a Village of the Northern Sudan	159

彙報 (平成3年1月～平成3年3月)

人事異動

(教職員)

(死亡)

2月4日 第一研究部教授 守屋 毅 (定年退職)

3月31日 第五研究部教授 垂水 稔 シンポジウム

◎特別研究「アジア・太平洋地域における民族文化の比較研究シンポジウムⅡ 海人の世界」

日時 平成3年1月14日(月)～17日(木)

場所 国立民族学博物館

摘要 今回は、「海人の世界」をテーマに、海とつよく密着した生活や活動をおこなう人びとが歴史上になった役割りやその文化の特質について、討論をおこなった。

実行委員会

(実行委員長)

秋道 智彌 国立民族学博物館第一研究部

(実行委員)

小山 修三 国立民族学博物館第四研究部

近藤 雅樹 国立民族学博物館第一研究部

佐々木史郎 国立民族学博物館第一研究部

佐藤 浩司 国立民族学博物館第四研究部

須藤 健一 国立民族学博物館第一研究部

松原 正毅 国立民族学博物館第二研究部

吉田 集而 国立民族学博物館第二研究部

吉本 忍 国立民族学博物館第二研究部

(事務局)

新見 惇一 国立民族学博物館管理部共同利用係

塚崎 美佳 『アジア・太平洋』事務局

参加者

(報告者)

秋道 智彌 国立民族学博物館

網野 善彦 神奈川大学短期大学部

植木 武 共立女子短期大学

大林 太良 東京女子大学

小島 孝夫 千葉県立安房博物館

後藤 明 宮城学院女子大学

小山 修三 国立民族学博物館

佐伯 弘次 福岡大学

佐々木史郎 国立民族学博物館

須藤 健一 国立民族学博物館

高桑 史子 明治大学

中山 和芳 東京外国語大学

早瀬 晋三 鹿児島大学

前田 成文 京都大学

真栄平房昭 神戸女学院大学

山口 正士 琉球大学

(討論者)

上田不二夫 沖縄県立沖縄水産高等学校

榎森 進 函館大学

小川徹太郎 トフルアカデミー

倉品 博易 グラム大学

近藤 雅樹 国立民族学博物館

佐々木高明 国立民族学博物館

シンシア・ネリ・ザヤス

フィリピン大学

高橋 公明 名古屋大学

田中 雅一 京都大学

鶴見 良行 龍谷大学

松木 哲 神戸商船大学

日程

1月14日(月)

(座長 松原 正毅)

10:00 館長あいさつ 梅棹 忠夫

運営委員長あいさつ 佐々木高明

(座長 須藤 健一)

問題提起 秋道 智彌

山立て航海と推測航海

- 小山 修三
(座長 小山 修三)
- 14:00 サンゴ礁の磯資源：乱獲・移
山口 正士
オーストロネシアによる太平洋への拡散：日本との関係も含めて
植木 武
- 1月15日(火)
(座長 倉品 博易)
- 9:30 ハワイの海と王権 後藤 明
ヤップの離島支配：交易にみる呪術・宗教的力 須藤 健一
ミクロネシアのビーチコーマー
中山 和芳
(座長 田中 雅一)
- 14:00 流動「農」民ブギス人
前田 成文
漁民？商人？—スリランカ・シンハラ Kavāva カーストについて—
高桑 史子
- 1月16日(水)
(座長 網野 善彦)
- 9:30 山丹交易と山丹人 佐々木史郎
琉球王国の海産物貿易—サンゴ礁資源の利用史— 真栄平房昭
対馬漁民の変容 佐伯 弘次
(座長 鶴見 良行)
- 14:00 明治期マニラ湾の日本人漁民
早瀬 晋三
海を渡る女たち—済州島出身海女の事例を中心に— 小島 孝夫
- 1月17日(木)
(座長 佐々木高明)
- 10:00 海と王様 大林 太良
海と海民の支配 網野 善彦
(座長 秋道 智彌)
- 14:00 総括討論
- ◎文明学部門第9回国際シンポジウム「近代世界における日本文明—観光の比較文明学」
日時 平成3年3月18日(月)～25日(月)
場所 国立民族学博物館

摘要 今回のシンポジウムでは、さまざまな「観光のあり方」に主眼をおき、世界の諸文明のシステムを比較検討することによって、日本文明がうみだした「観光」の特質をあきらかにすることを目的とした。

組織委員会

(委員長)

梅棹 忠夫 国立民族学博物館長

(委員)

竹村 卓二 国立民族学博物館第一研究部長

佐々木高明 国立民族学博物館第二研究部長

杉本 尚次 国立民族学博物館第三研究部長

友枝 啓泰 国立民族学博物館第四研究部長

藤井 知昭 国立民族学博物館第五研究部長

田中 武雄 国立民族学博物館管理部長

(専門委員)

ハルミ・ベフ

スタンフォード大学教授

ヨーゼフ・クライナー

ドイツ日本研究所所長

実行委員会

(委員長)

石森 秀三 国立民族学博物館第四研究部助教授

(委員)

杉田 繁治 国立民族学博物館第五研究部教授

須藤 健一 国立民族学博物館第一研究部助教授

小山 修三 国立民族学博物館第四研究部助教授

近藤 雅樹 国立民族学博物館第一研究部助手

朝倉 敏夫 国立民族学博物館第四研究部助手

佐藤 浩司 国立民族学博物館第四研究

彙 報

部助手
 奥出 栄治 国立民族学博物館研究協力
 課長
 湯浅 叡子 財団法人千里文化財団専務
 理事
 宇治日出二郎 財団法人千里文化財団事業
 部長

参加者
 ハルミ・ベフ
 スタンフォード大学人類学
 科教授
 ジェームズ・フォード
 アリゾナ州立大学宗教学科
 準教授
 ヨーゼフ・クライナー
 ドイツ日本研究所所長
 トーマス・ライムス
 ボン大学日本学科助教授
 ヤコブ・ラズ
 ヘブライ大学東アジア学科
 教授
 ジェニファー・ロバートソン
 カリフォルニア大学サンデ
 ィエゴ校人類学科助教授
 コンスタンチン・ヴァポリス
 メリーランド大学歴史学科
 助教授
 石森 秀三 国立民族学博物館助教授
 梅棹 忠夫 国立民族学博物館長
 神埼 宣武 神埼研究室主宰
 小長谷有紀 国立民族学博物館助手
 坂本 勉 慶応義塾大学文学部助教授
 周 達生 国立民族学博物館教授
 白幡洋三郎 国際日本文化研究センター
 助教授
 高田 公理 愛知学泉女子短期大学教授

日 程
 3月18日(月)(オオサカサンパレス)
 17:00 登 録
 3月19日(火)(国立民族学博物館)
 10:00 開会式

10:10 参加者紹介
 10:40 基調講演
 梅棹 忠夫(代読:杉田 繁治)
 文明現象としての観光
 第1セッション 観光と旅行の歴史的展開
 (座長:白幡洋三郎)
 13:00 中国における観光旅行の成立と展
 開 周 達生
 14:00 討 論
 15:30 イスラム巡礼と旅 坂本 勉
 16:30 討 論
 3月20日(水)(国立民族学博物館)
 第2セッション 旅する人間—巡礼そのほか
 (座長:ハルミ・ベフ)
 10:00 遊動民ノーマッドの文明論的特質
 小長谷有紀
 11:00 討 論
 13:00 テクスト, 場所, 記憶—広島的事
 例— ジェームズ・フォード
 14:00 討 論
 15:30 漂泊と定着—的屋(テキヤ)の自
 己呈示と祭り ヤコブ・ラズ
 16:30 討 論
 3月21日(木)(国立民族学博物館)
 第3セッション 観光の装置系と制度系
 (座長:ヨーゼフ・クライナー)
 10:00 近世日本における観光の起源
 コンスタンチン・ヴァポリス
 11:00 討 論
 13:00 旅行業の比較文明学 神埼 宣武
 14:00 討 論
 15:30 観光とテレビ—演出論の立場から
 みた現象と類型
 トーマス・ライムス
 16:30 討 論
 3月22日(金)(国立民族学博物館)
 13:00 館内見学
 3月23日(土)(国立民族学博物館)
 第4セッション 観光資源—伝統と創造
 (座長:神埼 宣武)
 10:00 観光と宗教—比較文明学の視点か
 ら 石森 秀三

11:00 討 論
 13:00 観光資源の情報学 白幡洋三郎
 15:30 現代日本における観光資源としての歴史

ジェニファー・ロバートソン

16:15 討 論

3月24日(日)(国立民族学博物館)
 第5セッション 観光の未来

(座長:小長谷有紀)

10:00 都市とその模型—文明の自己表現装置 高田 公理

11:00 討 論

第6セッション 総合討論

(座長:石森 秀三)

13:30 総括コメント1 ハルミ・ペフ
 総括コメント2

ヨーゼフ・クライナー

15:00 総合討論II

17:00 閉会式

3月25日(月)(オオサカサンパレス)

午前 ワークショップ

解 散

◎民族学部門第14回国際シンポジウム4「民族の相克と生成—北東アフリカ—」

日時 平成3年3月27日(水)

～4月3日(水)

場所 国立民族学博物館

求是荘

摘要 今回のシンポジウムでは、人類学、歴史学、国際政治学にたざさわる研究者が北東アフリカでの民族間の戦い、ヘグモニー的民族運動、民族の国家領域をめぐる争いなどについて討論した。

組織委員会

(委員長)

梅棹 忠夫 国立民族学博物館長

(委 員)

竹村 卓二 国立民族学博物館第一研究部長

佐々木高明 国立民族学博物館第二研究部長

杉本 尚次 国立民族学博物館第三研究部長

友枝 啓泰 国立民族学博物館第四研究部長

藤井 知昭 国立民族学博物館第五研究部長

田中 武雄 国立民族学博物館管理部長

実行委員会

(委員長)

福井 勝義 国立民族学博物館第三研究部助教授

(委 員)

田村 克己 国立民族学博物館第二研究部助教授

宮本 勝 国立民族学博物館第二研究部助教授

大塚 和夫 国立民族学博物館第三研究部助教授

小川 了 国立民族学博物館第三研究部助教授

庄司 博史 国立民族学博物館第三研究部助手

森 明子 国立民族学博物館第三研究部助手

宮脇 幸生 大阪府立大学総合科学部助手

奥出 栄治 国立民族学博物館研究協力課長

湯浅 叡子 財団法人千里文化財団専務理事

宇治日出二郎

財団法人千里文化財団事業部長

参加者

ティム・アレン

オープン・ユニヴァーシティー(放送大学)講師

ポール・バクスター

マンチェスター大学社会人類学研究者

ウェンディ・ジェームズ

オックスフォード大学社会

彙 報

人類学科講師

- ジョン・ランフィニア
 テキサス大学オースチン校
 歴史学科助教授
- ジョン・マルカーキス
 クレタ大学歴史・考古学科
 教授
- モハメッド・サリー
 スカンジナビア・アフリカ
 研究所講師
- デヴィッド・タートン
 マンチェスター大学社会人類
 学科講師
- 栗田 禎子 東京都立大学人文学部助手
 栗本 英世 東京外国語大学アジア・ア
 フリカ言語文化研究所助手
- 福井 勝義 国立民族学博物館助教授
 松田 凡 平安女学院短期大学講師

日 程

- 3月27日(水)(ホテル・サンルート南千里)
 17:00 登 録
- 3月28日(木)(国立民族学博物館)
 9:30 館内見学
 11:30 館長表敬訪問
 12:00 記念撮影
 13:00 開会式(司会:デヴィッド・ター
 トン)
 13:05 趣旨説明 福井 勝義
- 第1セッション 民族運動と伝統的イデオロ
 ギー
 (座長:ジョン・マルカーキス)
- 13:20 報告①
 戦争, ディンカのイデオロギーと
 スーダン人民解放戦線
 モハメッド・サリー
- 14:20 討 論
 15:50 報告②
 ホロモ民族性の創造と本質
 ポール・バクスター
- 16:50 討 論
- 3月29日(金)(国立民族学博物館)
 第2セッション 民族の伝統的生存戦略と民

族間関係

- (座長:ウェンディ・ジェームズ)
- 10:00 報告③
 民族集団の併合と総合—エチオピ
 ア西南部コエグをめぐる民族間関
 係— 松田 凡
- 11:00 討 論
- 13:00 報告④
 メラ・メエンと近隣集団における
 民族間の戦いと民族間関係の変換
 福井 勝義
- 14:00 討 論
- 15:30 報告⑤
 あたらしい軍事モデル, アテケル
 の進化—ジエとトゥルカナの比較
 研究— ジョン・ランフィニア
- 16:30 討 論
- 3月30日(土)(国立民族学博物館)
 第3セッション 民族性と地域主義をつなぐ
 もの
 (座長:モハメッド・サリー)
- 10:00 報告⑥
 スーダン・ウガンダ国境における
 民族性と攻撃性—アチャリとマデ
 ィー— ティム・アレン
- 11:00 討 論
- 13:00 報告⑦
 1960~80年代のスーダンの地域運
 動における社会的基盤
 栗田 禎子
- 14:00 討 論
- 3月31日(日)(京都観光)
- 4月1日(月)(求是荘)
 第4セッション 民族と国家のはざま
 (座長:ポール・バクスター)
- 10:00 報告⑧
 ムルン社会における民族間の戦
 い, 政治的アイデンティティとヒ
 トの概念
 デヴィッド・バクスター
- 11:00 討 論
- 13:00 報告⑨

内戦と地域戦争

—パリと近隣集団— 栗本 英世

14:00 討 論

15:30 報告⑩

内戦の形態とスーダン・エチオピア
国境の諸民族—ウドゥック社会
の最近の経験

ウエンディ・ジェームズ

16:30 討 論

4月2日(火)(求是荘)

第5セッション 民族の国際政治戦略

(座長:ジョン・ランフォニア)

10:00 報告⑪

“アフリカの角”における戦いの

背景 ジョン・マルカーキス

11:00 討 論

第6セッション 総合討論

(座長:デヴィッド・タートン, 福井 勝義)

13:30 討 論

15:30 討 論

17:00 閉会式

4月3日(水)(ホテルレークビワ)

9:00 ワークショップ

シンポジウムの成果の出版について

解 散

海外における研究・調査・収集活動

氏 名	官 職	出 発	帰 国	行 先
櫻井 哲男	助教授 (第五研究部)	3. 1. 7	3. 1.14	大韓民国
江口 一久	助教授 (第三研究部)	3. 1. 7	3. 3. 4	フランス, カメルーン
山本 紀夫	助教授 (第四研究部)	3. 1.25	3. 3.15	ネパール
田村 克己	助教授 (第二研究部)	3. 2. 5	3. 3.21	中国, 香港, 台湾
佐藤 浩司	助 手 (第四研究部)	3. 2.10	3. 3.19	インドネシア
大塚 和義	助教授 (第一研究部)	3. 2.13	3. 3. 5	アメリカ合衆国
崎山 理	教 授 (第五研究部)	3. 2.22	3. 3. 3	インドネシア
吉田 集而	助教授 (第四研究部)	3. 2.22	3. 3. 3	インドネシア
杉島 敬志	助 手 (第二研究部)	3. 2.22	3. 3. 3	インドネシア
佐々木高明	教 授 (第二研究部)	3. 2.25	3. 3. 7	インドネシア
吉本 忍	助教授 (第二研究部)	3. 2.25	3. 3.16	インドネシア
秋道 智彌	助教授 (第一研究部)	3. 3. 2	3. 3.16	インドネシア
長野 泰彦	助教授 (第一研究部)	3. 3.12	3. 3.25	インド
櫻井 哲男	助教授 (第五研究部)	3. 3.13	3. 3.17	大韓民国
塚田 誠之	助 手 (第三研究部)	3. 3.23	3. 3.29	中国
大給 近達	教 授 (第四研究部)	3. 3.25	4. 9.24	ブラジル, パラグアイ, ボリビア, ペルー
藤井 知昭	教 授 (第五研究部)	3. 3.30	3. 4. 7	インド

来館者抄

1月9日 白 奎 男 (中国, 中国文化宮
主任, 中国民族音像出版社社長
・中国民族理論研究会副理事長)
雅 嘎 熱 (中国, 中国音像出
版社)
王 景 亭 (中国, 民族文化宮

亦公室副主任)

王 复 舜 (中国, 中国民族文
化宮民族友誼画苑副經理・画
家)

1月24日 Michel WATSON (明治学院大学
国際学部付属研究所)

1月25日 中華民国教育部基層社会教育人
員考察団一行 総勢25名

- 1月26日 Peter HOLMES(イギリス, シェル・トランスポート・アンド・トレード社会長) 夫妻
- 1月31日 Luce-Marie ALBIGES(フランス, ボンピドーセンター公共情報図書館画像部上級秘書)
- 2月4日 Leila BOUSSAID(アルジェリア, アルジェリア法律大学講師)
- 2月21日 中国上海宝山製鉄所資料管理視察団一行 総勢9名
連 照 美 (台湾, 国立台湾史前文化博物館籌備所主任・国立台湾大学人類学系教授)
宋 文 薰 (台湾, 中央研究院院士・国立台湾大学人類学系教授・国立台湾史前文化博物館籌備所規劃委員兼顧問)
黃 世 孟 (台湾, 国立台湾大学土木工程研究所教授・国立台湾史前文化博物館籌備所規劃委員兼顧問)
楊 宗 璋 (台湾, 国立台湾史前文化博物館籌備所技正兼工務組組長)
呂 理 政 (台湾, 国立台湾史前文化博物館籌備所研究規劃組助理研究員)
陣 文 玲 (台湾, 国立台湾史前文化博物館籌備所研究計畫助理)
- 2月22日 長谷川慶子(国立極地研究所図書室)
- 3月1日 岡本 洋子(石川県立歴史博物館学芸員)
杉田 美紀(同館総務課主事)
ジョン・ピーター・マローニ(イギリス, ロンドン博物館発掘調査主任)
R. D. TRIVEDI(インド, 考古局副所長)
B. K. SHARAN(インド, バトナ地方支局長)
- 3月2日 中国西南民族学会一行
- 3月6日 Somkid CHOTIGAVANIEK(タイ, 教育文化省芸術局次長)
Taveesak SENANARONG(タイ, 教育文化省事務次官補)
高木 博彦(国立歴史民俗博物館展示課長)
戸枝 敏郎(同館展示課計画係長)
西川 博孝(同館資料課整理係長)
岩下 健吾(同館会計課管理係長)
- 3月8日 森脇 英一(東京国立博物館次長)
鷲塚 壽(同館管理課長)
- 3月18日 ピーター・ブリード(アメリカ合衆国, ネブラスカ大学人類学部教授)
東南アジア諸国文化財保存関係者一行 総勢17名
- 3月19日 Syed Hussein ALATAS(マレーシア, マラヤ大学前副学長) 夫妻
- 3月20日 Mohamed Omer BESHIR(スーダン, ハルツーム大学アジア・アフリカ研究所教授)
- 3月28日 李 載 俊(大韓民国, 大統領秘書室広報課長)
- 3月29日 バスカル・ルクレール(フランス, シネマテーク・フランセーズ事務局長)

国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は、民族学（文化人類学）に関する論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等を掲載・発表することにより、民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
 - (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織、運営に関与する者
 - (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
 - (3) その他本館において適当と認められた者
3. 原稿を寄稿する場合は、論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等のうち、いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお、この区分についての最終的な調整は、国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は、原則として論文及び資料・研究ノートを1段組、その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は、日本語、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし、その他の言語を用いる場合は、編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字、記号、印刷方法等が必要な場合は、編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で、日本語を使用する場合は、原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし、その他の言語による論文の場合は、編集委員会に相談するものとする。なお、寄稿する原稿については、執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は、原則として制限しない。ただし、編集する場合は編集委員会の判断により、紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は、必ず清書（欧文の場合はタイプ）し、原稿の写し1部を添付するものとする。なお、図、表のスマ入れ、レタリングは、編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は、審査委員会において審査のうえ、採否を決定する。なお、原稿は、採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当っては、別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は、次のとおりとする。

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園10-1

国立民族学博物館内

国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表06-876-2151）

国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は、200字詰原稿用紙を使用し、横書きとする。
2. 原稿は、図、表を除き、原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は、原則として当用漢字、現代かなづかいを用いる。
4. 句読点、括弧、各種記号等は、原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号、月日及びその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。なお、年号は、原則として西暦とする。
6. 図及び表は、一図、一表ごとに別紙に書き、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに通し番号（「図1」、「表1」等の要領により記入）、図、表名及び説明並びに出典等を記し、本文原稿の欄外には、それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は、写りの明瞭なもので、手札判以上の大きさに焼き付けたものに限り、図及び表の扱いに準じて通し番号、説明を付けたうえ、そう入箇所を指定するものとする。ただし、カラー写真は、原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は、カギ括弧を付け、著者名、文献刊行年次、引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。

[柳田 1942: 67-69]

[Leach 1961: 123]

[柳田 1942: 67-69, 1944: 20-22; Leach 1961: 123]

ただし、同年次刊行物の場合は、アルファベット順により、下記のように記載するものとする。

[柳田 1942a: 20-22] [柳田 1942b: 10]

9. 脚注は、一つ一つ別紙に記し、通し番号を付ける。なお、本文中に脚注をそう入する箇所には、脚注の当該番号を記入し、別紙の脚注には、本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。

(1) 文献の配列は、著者名のアルファベット順とすること。

(2) 文献の記載は、著者名、年号、論題（タイトル）、誌名、巻、号、出版社名の順とすること。

欧文の雑誌名及び単行本名は、イタリック体にするため、原稿には下線を引くこと。また、ローマ字人名は、スモール・キャピタルとするため、二重下線を引き、日本語の場合は、論題にカギ括弧、雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は、原則としてアラビア数字を用いること。

(例)

論文の場合 (1)

石田英一郎

1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』13 (4): 311-330。

Bohannan, P.

1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14 (4): 357-372.

論文の場合 (2)

杉浦 健一

1942 「民間信仰の話」柳田国男編『日本民俗学研究』岩波書店, pp. 117-143.

Leach, Edmund

1964 Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse. In Eric H. Lennenberg (ed.), New Directions in the Study of Language, The M. I. T. Press, pp. 23-63.

単行本の場合

泉 靖一

1966 『文明をもった生物』日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

1960 Social Structure in Southeast Asia. Viking Fund Publications in Anthropology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ, M.

1974 『シャーマニズム——古代のエクスタシー技術——』堀一郎訳 冬樹社。

van Gennep, Arnold

1960 The Rites of Passage. M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The University of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告 16卷1号

〔監 修〕

梅 棹 忠 夫

〔編集委員長〕

友 枝 啓 泰

〔編集委員〕

石 森 秀 三

江 口 一 久

片 倉 素 子

崎 山 理 生

周 達 生

須 藤 健 一

垂 水 稔 彦

長 野 泰 夫

林 行 勝 毅

福 井 勝 毅

松 原 正 毅

宮 本 勝

平成3年8月31日 発行 非売品

国立民族学博物館研究報告 16卷1号

編集・発行

国立民族学博物館

〒565 吹田市千里万博公園10-1

TEL 06(876)2151(代表)

印 刷

中西印刷株式会社

〒602 京都市上京区下立売通小川東入

TEL 075(441)3155(代表)

Bulletin of the National Museum of Ethnology
vol.16 no.1
1991

AKIMICHI, Tomoya
SAKIYAMA, Osamu

Manus Fish Names

NISHI, Yoshio

**The Distribution and Classification of the
Himalayan Languages (Part II)**

OHTSUKA, Kazuo

**Land Use System and Social Relations in an
Irrigated Agricultural Area along the Nile :
A Case from a Village of the Northern Sudan**



**National Museum
of Ethnology**

Senri Expo Park, Suita, Osaka, Japan
phone 06-876-2151

ISSN 0385-180X